

ちょっと気になる八王子マガジン

は ち と ひ

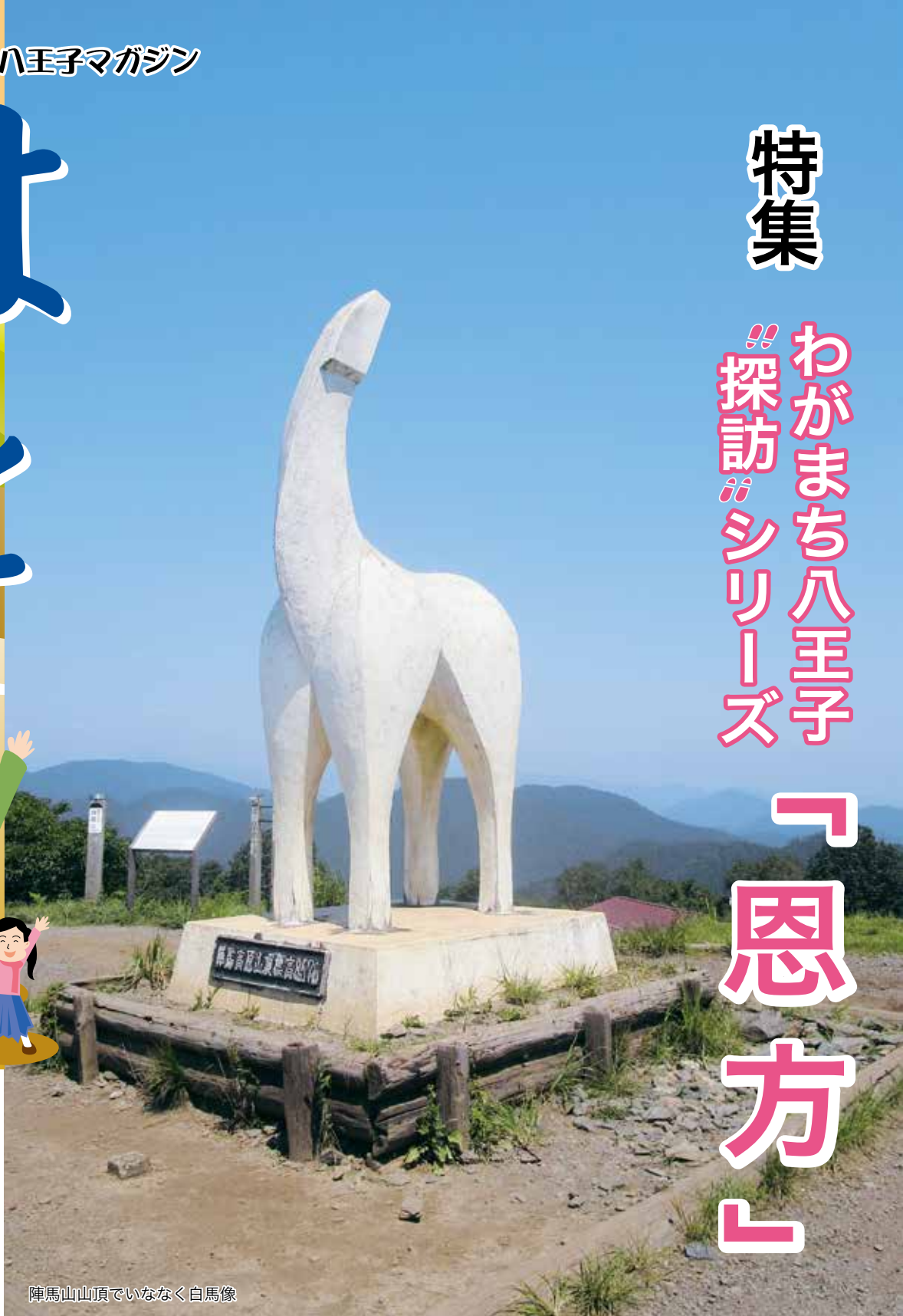


2020年 清風号

No.46

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉



陣馬山山頂でいなく白馬像

特集

わがまち八王子
探訪シリーズ

「恩方」

恩方地域を深〜く知る！

“陣馬街道散策コース”

宝生寺団地〜醍醐

山中につながる古の道を辿って

陣馬街道と陣馬山

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌⑫

コラム 八王子の原風景⑫

私の本はこうして生まれた 其の四十六

NPO法人 小津倶楽部

恩方へ誘ってくれた方々 佐藤 広

谷地川流域を訪ねて 3 馬場喜信

『キミ達の青い空 一八王子空襲から七十五年―』 前野 博 著

深〜く

恩方地域を知る！

陣馬街道散策コース

今回の八王子探訪シリーズは恩方地域。宝生寺団地から陣馬街道を辿って、醍醐へと向かうルートを設定しました。その昔、甲州街道の裏街道と称された道沿いに残る恩方地域の歴史に触れてみます。

はちとぴ
観光☆
——特撰——



◎「恩方村」の縁起

八王子市の北西部に位置する恩方地域。かつての下恩方村、上恩方村、西寺方村、小津村が1889（明治22）年に合併して恩方村となりました。

恩方は西端に陣馬山、醍醐丸といった山々がそびえ、山林が多い地域です。このため、古くから林業や炭焼きが盛んに行われてきました。また、畑作を主体として、養蚕・機織りが盛んな地でもありました。現在では観光農園が多く、ブルーベリーやりんごが栽培されています。

恩方地域を東西に貫き、和田峠に至る陣馬街道は、古くは案下道、恩方街道、佐野川往還とも呼ばれ、甲州街道の裏街道でもありました。街道沿いには社寺が多く、セエノカミ（繭玉焼き）など、古くからの行事が現在も残っています。このほか、八王子車人形の活動拠点として、西川古柳座の稽古場があるなど、民俗芸能がいまも息づいています。

こうした恩方の風景を詩に託したのが中村雨紅です。中村に残した「夕焼小焼」の歌は、八王子の夕方のチャイムで毎日流れ、市民に最も親しまれている童謡といえるでしょう。1996（平成8）年には、農作業への理解と地域の振興を目的に「夕やけ小やけ文化農園」が開園。その後、2000年に観光施設として、「夕やけ小やけふれあいの里」に改称し、市民に親しまれています。



手づくり公園として2004（平成16）年より地域住民と市が協働で整備し、2008（平成20）年に開園。園内には多くの遊具や健康器具が設置されている。春になると河津桜が咲き誇り、さくらまつりが開催される。（はちとぴ13号参照）

③小田野中央公園



①宝生寺

前身は鎌倉時代末期に創建されたと伝えられる大幡観音堂で、寺としては1425（応永32）年に創建されたという。太平洋戦争時に堂宇を焼失し、戦後に再建された。境内に中村雨紅の碑、都文化財の木造毘沙門天立像もある。



④中島登出生之地の碑



②陵北大橋

北浅川と山入川の合流地点近くに架かる1972（昭和47）年竣工の橋。橋の上からは恩方の豊かな自然を見渡すことができる。陣馬街道からこの橋を渡った先に宝生寺団地がある。

中島登（1838〜87）は、寺方村（現・西寺方町）の千人同心の子として生まれ、自身も同心となるが、後に離村。新撰組に入隊し、土方歳三とともに戦った。箱館五稜郭の戦いで捕えられ、遠州白須賀（現・静岡県湖西市）へ開拓農民として入植。後に浜松で鉄砲火薬店を開いた。

恩方村忠魂碑の前に
碑がたくさんあるよ！



マイペースで
歩きましょう！



⑪ 恩方事務所

1階に地域福祉推進拠点恩方、高齢者あんしん相談センター恩方、2階には恩方老人憩の家を備える。隣接して恩方農村環境改善センターがある。



⑨ 御嶽神社

毎年4月に例大祭が開かれ、夕方に百八灯が行われる。百八灯は太平洋戦争中に出征兵士の無事を祈って、数軒の家が神社の麓に灯明を並べたのが始まり。一時中断していたが、1981（昭和56）年に復活した。



⑫ 浄福寺

寺伝によると、文永年間（1264～1274）創建の観音堂別当であったが、1524（大永4）年に焼失し、翌年に大石道俊・憲重父子が中興したと伝えられる。寺の裏山に浄福寺城跡がある。本堂内に都指定有形文化財の観音堂内厨子がある。



⑩ 西川古柳座稽古場

「ろくろ車」と呼ばれる箱型の車に腰掛けて1人で人形を操る八王子車人形、西川古柳座の活動拠点。日本だけでなく海外でも公演を重ねる。1996（平成8）年に国の選択無形民俗文化財に選定。（はちとび20号参照）



この写真は
興慶寺の梵鐘です。

北浅川にかかる
駒木野橋です。



次の
ページへ
GO!



15 恩方村忠魂碑

1920（大正9）年建立。戦後、地中に埋められたが、講和条約発効後に掘り出して再建した。脇には再建の際に合祀された戦死者の氏名などを刻む殉国者芳名碑が建つ。また、忠魂碑の正面には招魂祭資金募集記念碑、建碑同士の会之碑、恩方遺族会関係碑などの碑が建っている。



13 浄福寺城跡



大石氏の築城といわれ、城跡には尾根を切って作られた堀切や段上に作られた曲輪など、多くの遺構が見られる。別名、案下城、新城、松竹城、千手山城とも呼ばれ、市史跡に指定されている。

14 皎月院



天正年間（1573～91）草創。その後、2度の焼失に遭い、現在の寺は1898（明治31）年に再建。戦時中は学童疎開の施設として利用されていた。隣接する恩方中学校もかつては境内だったが、戦後に土地を寄附して中学校が建った。

16 興慶寺



恭翁運良が1297（永仁5）年に創建した白沢庵を、市内山田町の広園寺の開山令山が1384（至徳元）年に寺としたと伝えられる。江戸時代末期に火災で本堂が炎上したが、山門は免れた。鐘楼の鐘は太平洋戦争の際に供出した後、復元された。



正式社名は住吉神社琴平神社合社。童謡「夕焼小焼」の作詞者、中村雨紅（本名・高井宮吉）は、宮尾神社宮司の高井丹吾の三男として生まれた。1956（昭和31）年に中村雨紅の還暦を祝い、郷土の有志によって、境内の生家跡に「夕焼小焼の碑」が建てられた。



19 宮尾神社



初心者から本格的なルアー釣りまで楽しむことができ、手ぶらでも釣具一式をレンタルできる。団体用BBQ小屋では持ち込んだ食材だけでなく、釣ったばかりのマスを焼いて食べることができる。

17 北浅川 恩方ます釣場

1938（昭和13）年に開局。木造2階建ての局舎は当時の建物を現在も使っていて、入口の看板も当時の右書きのまま。局社内には大提灯が掛けられている。風景印の図案は、近くの宮尾神社にある夕焼小焼の石碑と陣馬高原の白馬の像、そして富士山が描かれている。

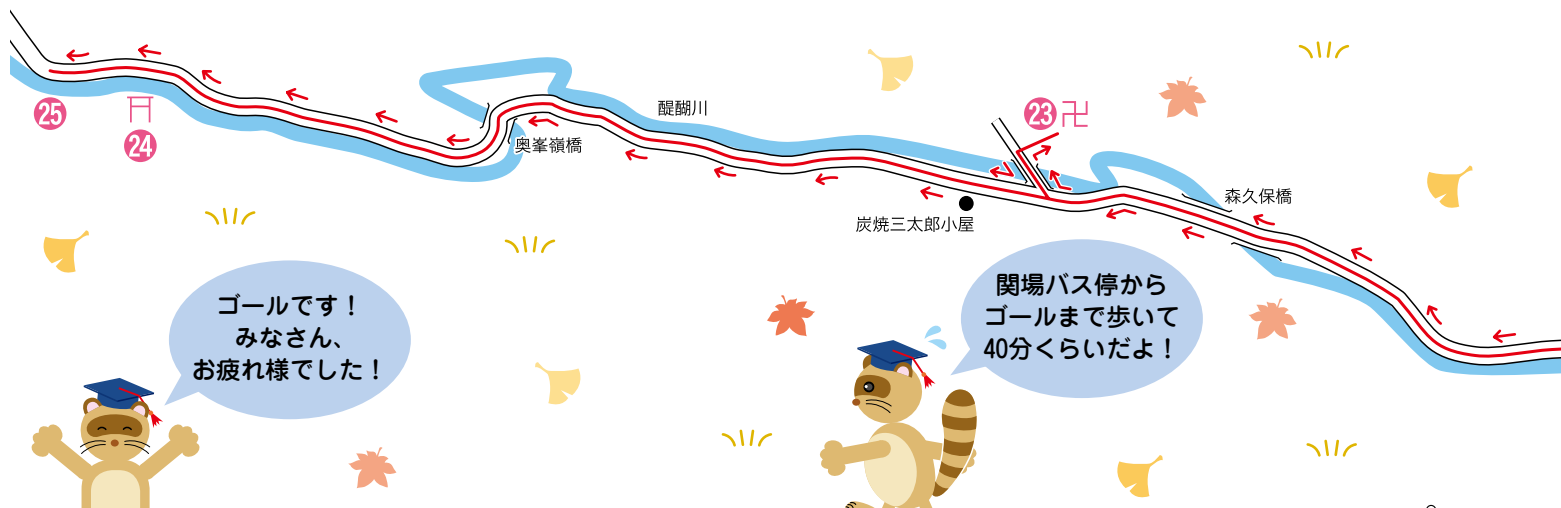


20 上恩方郵便局

山里の生活や自然に触れられ、農作業体験、川遊び、釣り、キャンプなどが楽しめる複合レクリエーション施設。年間を通じて、季節の移り変わりを活かしたイベントを数多く開催している。宿泊施設や食事処があるほか、中村雨紅の資料や前田真三の作品が展示されている。（はちとぴ32号参照）



18 夕やけ小やけふれあいの里



23 龍泉寺

草創は1464（寛正5）年。市指定有形文化財では唯一の鉄仏、鉄造聖観音菩薩立像がある。鎌倉時代の製作と推定され、鉄という材質にもかかわらず、胸飾りなどが巧みに表現された優品である。



24 龍蔵神社

日照り続きに参拝し、醜湖川上流にある龍神淵の水を持って帰ると不思議に雨が降ったという雨乞いの習俗が知られている。また、安産の神でもあり、奉納してある赤や白の旗を借りて腹帯にすると、お産が軽くすむという。



25 DAIGOエコロジー村

「案下炭」の再現を目的に有志が始めた炭焼村。現在は会員制度をとり、会員が気軽に「炭焼」を楽しむとともに、環境教育のための場としてさまざまなイベントを行っている。（はちとび8号参照）



関場バス停からゴールまで歩いて40分くらいだよ！



21 金照庵跡



興慶寺の末寺で、隠居寺として使われていた庵。明治初年に廃寺となった。松姫が逗留したことも知られる。江戸時代は寺子屋の役割も果たし、1872（明治5）年の学制発布で浅川学舎となり、1880（明治13）年に上恩方小学校（現・恩方第二小学校）と改称した。

22 口留番所跡



佐野川へと続く道は古案下道と呼ばれ、戦国時代から甲州への最短路として栄えた。口留番所とは、江戸時代に他領と接する交通の要衝に設置された小規模な関所のこと。「関所趾」と書かれた石柱の脇に「関場記」という碑が建つ。